



リチウムイオン電池の発火事故、夏場に多発！ あの服もご注意！

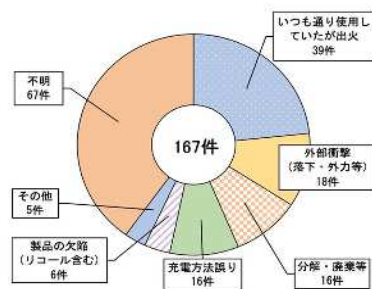


図2 出火要因別状況（令和5年中）

※図は東京消防庁ホームページより引用

モバイルバッテリーやスマートフォンなど、私たちの身近な製品に広く使われている**リチウムイオン電池**。NITE（製品評価技術基盤機構）の調査によると、この電池の発火事故が夏場に多発していることが明らかになりました。

リチウムイオン電池は熱や衝撃に弱い性質があります。そのため、高温になる夏場に直射日光の当たる場所や車内に放置すると、電池内部の温度が上昇し、発火のリスクが高まります。



過去5年間の事故発生件数を見ても、8月、7月、6月が特に多いという結果です。

特に多い事故例

モバイルバッテリーが最も多く、次いで電動アシスト自転車、充電式電動工具などが続きます。

近年利用が広がっているファン付き作業服も事故が報告されており、充電中の発火やバッテリーの膨張などが確認されています。

携帯型扇風機やスマートフォンも、落下などの衝撃や、膨張した状態での使用による発火事故が報告されています。



リチウムイオン電池の事故を防ぐための注意点

- ✓ **直射日光の当たる場所や車内には放置しない。**
 - ✓ **強い衝撃を与えないように注意しましょう。**
 - ✓ **充電中に異変（異臭、発熱、膨張など）を感じたら、すぐに充電や使用を中止しましょう。**
 - ✓ **PSEマーク付きのものを選びましょう。非純正品や極端に安価な製品には注意し、信頼できる製品を選びましょう。**
- リコール対象製品でないか、経済産業省のホームページなどで確認しましょう。



PSEマークは、国の定める安全基準の審査に合格した電気製品に表示されます。



経済産業省リコール情報

万が一、異常が見られた場合の対処法

リチウムイオン電池は、可燃性ガスが着火して火災に至ります。ですので、

粉末消火器での消火は困難です。**冷やすことが最も有効な手段**となります。

バッテリーが膨らんでいる場合は、金属製のバケツや鍋に入れてフタをし、アルミテープで固定すると延焼を防ぐことができます。

発火してしまった場合は、**大量の水をかけて消火し、可能な限り水没させた状態**で消防に通報してください。

車内で発火した場合は、急激に火が広がる可能性があるため、すぐに車から離れて安全を確保し、消防に通報しましょう。

リチウムイオン電池は便利な一方で、正しい取り扱いが重要です。

夏の時期は特に注意し、安全に製品を使用しましょう。